



リードカナリーグラスの利用の基本は早刈りです

皆さんの草地でリードカナリーグラス(RCG)が増えて困っている草地があると思います。RCGは飼料として良い草種とは言えませんが、根絶ができない現状ではつきあっていかざるを得ません。発想を切り替えて、RCGを積極的に利用することを考えてみませんか。

農家で生産された1番草(出穂期)RCG主体サイレージの採食量は、チモシー1番草(出穂期)サイレージと比較すると、2~3割程度少ない値でした。

そこで、RCG1番草の刈取適期を飼料成分から検討してみました。

刈取時期は穂孕み、出穂始、出穂期の3時期です。代表的な飼料成分であるNDFとADFの含量の挙動を草丈とともに図1、2に示しました。

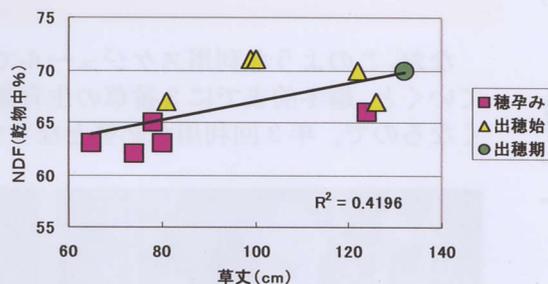


図1 RCG 1番草の草丈とNDF含量

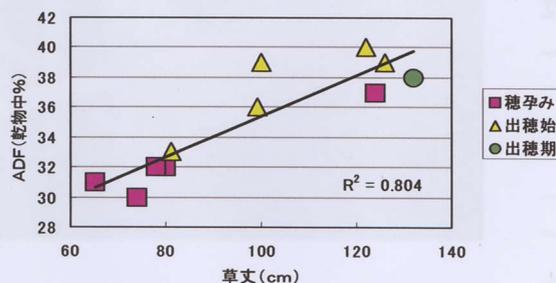


図2 RCG 1番草の草丈とADF含量

概ね早い刈取時期の方がNDF、ADF含量が少ない傾向でした。さらに、同じ刈取時期でも収穫時の草丈の影響が大きく、特にTDNと関係の深いADF含量は草丈と高い相関がみられました。

RCGのNDF、ADF含量がどの程度のものかを知るためにチモシーの両含量をみると、チモシー出穂期のNDF含量は61.2%、ADF含量は36.3%です(日本飼料成分表(2001年版))。

そこで、今回得られた値と比較してみると、NDF含量はいずれの刈取時期でもチモシーに比べて、高い値でした。したがって、NDF含量がより低いものを収穫するためには、穂孕みのようななるべく早い刈取ステージでの収穫が望ましいと思われます。

ADF含量は80cm程度の草丈の刈り取りであれば、チモシーの36.3%を下回っており、飼料価値の高い粗飼料を生産できると考えられます。

次に、RCG2番草の刈取適期を飼料成分から検討してみました。刈取時期は1番草刈取後の生育日数の40日と60日の2時期です。その結果、生育日数40日の方がNDFおよびADF含量が少ない傾向にありました。

以上のことから、今回の結果では1番草は穂孕みでの利用を基本としますが、草丈の伸長によっては草丈80cmぐらいでの利用が望ましいでしょう。また、2番草は生育日数40日程度での利用が適当です。

リードカナリーグラスに対する新しい取り組み

当支場ではリードカナリーグラス (RCG) について、別の視点からも研究を進めています。RCG にはアルカロイドが含まれていることが知られていますが、都府県ではアメリカで開発された RCG 品種の利用が推奨されています。この品種はアルカロイド含量が低く、低アルカロイド品種として流通しています。これら低アルカロイド品種についての情報をお知らせします (日草誌 第54巻別号)。

現在、国内で入手できる低アルカロイド品種は「ベンチャー」「パラトン」の2品種が有り、当支場内で栽培してみました。その生産量についての結果を図3に示しました。

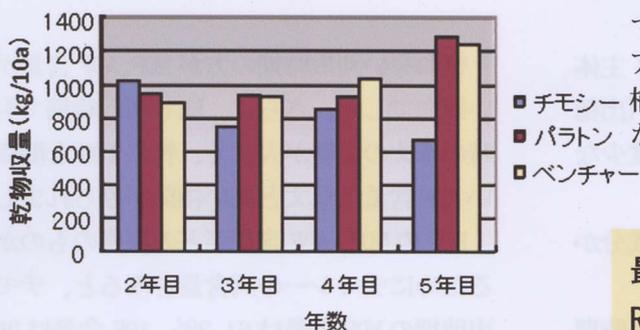


図3 低アルカロイド品種の乾物収量の推移

これら2品種の生産力は植生の悪化で収量が低下していくチモシーに比べ、安定的でした。次に飼料成分の分析結果を表1、2に示しました。

表1 低アルカロイド品種の1番草の繊維成分

草種	NDF	ADF	Ob
品種	(乾物中%)		
パラトン	69.8	38.0	54.7
ベンチャー	69.0	38.1	59.2
自生RCG	70.2	37.9	68.1
チモシー	69.0	38.5	47.4

表2 低アルカロイド品種の2番草の繊維成分

草種	NDF	ADF	Ob
品種	(乾物中%)		
パラトン	62.7	31.9	53.2
ベンチャー	63.0	32.4	50.7
自生RCG	65.2	33.0	63.8
チモシー	54.3	28.6	40.9

表中にある「自生 RCG」は同時期に収穫した豊富町のある圃場のものです。1番草では NDF や ADF 含量は「自生 RCG」と同程度ですが、消化されにくい繊維画分 (Ob) は「自生 RCG」よりも少ない傾向がみられました。Ob 含量が少

ないほど摂取量が多いことが知られていますので、低アルカロイド品種の方が採食性の高いことが示唆されます。

以上のように、低アルカロイド品種を当地域で栽培しても、安定的に収量が確保できるようです。しかし、実際に導入するにあたっては、アルカロイドの含有量と採食量の関係や既存植生との競合の問題など、解明しなければならぬ点が多くあります。

最後に

RCG 利用の基本は早刈りの励行です。想定される刈取スケジュールを下に示しました。

1番草 穂孕みで草丈 80cm 程度 6月10日頃
2番草 生育日数 40日程度 7月20日頃

なお、このような利用スケジュールで利用していくと、越冬前までに3番草の生育量が大きくなるので、年3回利用が必要となります。



・低アルカロイド品種に興味のある方は、当支場までご連絡下さい。